

## 5. 千葉県公立高校入試の動向

「千葉県公立高校入試 / 31 年度の概要」

総進図書 岡山 栄一 氏

# 千葉県公立高校入試/31年度の概要

(株) 総進図書 岡山 栄一

## 上位校が激戦の中、過去最大の二次募集（36校 50学科・870名）を実施！

現行の入試制度（前期選抜・後期選抜）になって9年目の入試であった。千葉県の入試制度は、2021年度入試より前期選抜と後期選抜の一本化が既に決定しており、来年度の入試が現制度での最後の入試となる。千葉県の入試制度は平成28年度にいわゆるマイナーチェンジがあり、前期選抜における選抜枠（全体募集に対して前期選抜において募集する割合）が、専門学科及び総合学科について上限を100%、つまり前期選抜で全ての人員を募集することが可能となった。今年度は該当する52校96学科のうち約83%の40校80学科が前期選抜の選抜枠を100%に設定した。ほぼ昨年度と同様な選抜枠の状況であった。また、「県立学校改革推進プラン・第3次実施プログラム」により、市原高校と鶴舞桜が丘高校が統合された。また、幕張総合高校の普通科が総合学科に改編され、市川南高校の普通科に「保育基礎コース」、我孫子東高校の普通科に「福祉コース」が設置された。2020年度入試においても、いくつかの普通科に「保育基礎コース」や「医療コース」等の特色あるコースの設置が予定されている。

今年度の前期選抜は、昨年度より1日早い2月12日（火）、13日（水）に実施された。予定人員22,026人に対し、37,687人が志願し、志願倍率は1.71倍となった。進学予定者数の減少（昨年度より約930名減少）に伴い、前期予定人員も456名減少したが、それを大幅に上回る志願者数の減少があり、昨年度より0.03ポイント下降した。2年連続の下降であった。例年高い倍率を示す普通科だが、2.50倍を越す異常な倍率の学校・学科は、大幅に増加した昨年度よりさらに校数・学科数を伸ばし、16校18学科（昨年度15校17学科）となった。県立船橋を筆頭に、千葉東、県立千葉、東葛飾は今年度も3倍を超えたほか、受検区域を変更した市立松戸、成田国際も3倍を超え、3倍超えあるいはそれに近い高倍率を記録した学校が増加した。一方、志願倍率が1.00倍に満たない学校・学科は、22校32学科（昨年度25校35学科）となり、昨年度よりは減少したが、二極化の状態は変わらず、前期選抜でのチャレンジ傾向が続いていると言える。学科別では、下位校の志願者数の減少が響いた「普通科」、近年人気が高かった「国際関係に関する学科」が昨年度に比べると低調で、代わりに4.46倍の超高倍率を記録した県立船橋の理数科をはじめ「理数に関する学科」が伸びを示した。他に、「福祉に関する学科」、総合学科に改編した幕張総合の影響で、「総合学科」も大幅な伸びを示した。逆に、「水産に関する学科」は、0.56倍まで落ち込む状況となった。

後期選抜は2月28日に実施され、予定人員11,360人に対し15,405人が志願した。志願倍率は、1.36倍で昨年度より0.04ポイント下降し、2年連続の大幅な下降であった。前期選抜同様、募集人員の減少を大幅に上回る志願者数の減少が影響した。志願・希望変更を行った受検者は、大幅増であった昨年度の約450人を下回り、約390人の受検者が志願先の高校を変更した。志願・希望変更は倍率が高い学校が集中する都市部に集中するが、今年度は特に船橋・市川・松戸の2学区、柏を中心とした第3学区、印旛地域の第4学区に大きな変動が見られた。特に受検区域を変更した市立松戸絡みの志願変更が際立った。2.00倍を超えた学校・学科は、昨年度とほぼ横ばいの11校14学科で、上位校及び人気校では依然厳しい入試が続いた。今年

<b>前期予定人員</b>	22,026人 (456人減)
志願者数	37,687人 (1,377人減)
志願倍率	1.71倍 (1.74倍)
欠席者数	123人 (202人)
受検者数	37,564人 (1,298人減)
合格者数	21,551人 (500人減)
実質倍率	1.74倍 (1.76倍)
<b>後期募集人員</b>	11,360人 (239人減)
志願者数 (2/22)	15,405人 (888人減)
志願者確定数	15,405人 (876人減)
志願倍率	1.36倍 (1.40倍)
欠席者数	17人 (8人減)
受検者数	15,388人 (868人減)
合格者数	10,544人 (637人減)
実質倍率	1.46倍 (1.45倍)

度は、印旛地区の佐倉及び成田国際の普通科、定員減の東葛飾の影響もあった小金が、昨年度を大幅に上回る倍率となった。また、中堅校では、千葉市の検見川や市立松戸の伸びが顕著であった。その一方で、志願倍率が 1.00 倍に満たない学校・学科は、大幅増の昨年度をさらに上回る結果となった。1.00 倍に満たない学校・学科は 37 校 50 学科（一昨年度 20 校 27 学科→昨年度 26 校 38 学科）にまで達した。その後実施された二次募集においても、例年にない募集人員（651 名）を記録した昨年度をさらに上回り、870 名の大募集の結果となった。

以上の結果から、今年度の千葉県公立入試は、志願の状況・結果において、今まで以上の 2 極化が見られた年度と言える。

## 各学区の概況（全体的に低調の中、4 学区激戦に！）

### 〔1 学区—千葉市〕

前期選抜及び後期選抜ともに、昨年度なみの志願状況であった。40 名の定員減が 6 校あり、最も定員が削減された学区であった。県トップの県立千葉の前期選抜は昨年の 3.00 倍より若干上昇し、3.18 倍とほぼ一昨年の倍率に戻した。1 学区二番手の千葉東は、40 名の定員減の影響で志願者数を減らす、倍率は昨年度並みの 3.19 倍と相変わらずの人気となった。上昇、下降の隔年現象を続けている市立 2 校の普通科は、今年度も昨年度の入試を反映して、市立千葉は上昇（2.46 倍→2.83 倍）、市立稲毛は下降

学区（地域）	前期選抜	後期選抜
1 学区(千葉市)	1.87 倍(1.87)	1.55 倍(1.54)
2 学区(船橋・松戸他)	1.84 倍(1.89)	1.47 倍(1.51)
3 学区(柏・流山他)	1.73 倍(1.84)	1.32 倍(1.56)
4 学区(佐倉・四街道他)	1.74 倍(1.71)	1.46 倍(1.35)
5 学区(佐原・銚子他)	1.27 倍(1.29)	0.97 倍(0.97)
6 学区(成東・東金他)	1.46 倍(1.42)	1.05 倍(1.08)
7 学区(茂原・いすみ他)	1.23 倍(1.14)	0.98 倍(0.87)
8 学区(安房・館山他)	1.21 倍(1.48)	0.56 倍(0.97)
9 学区(木更津・市原他)	1.50 倍(1.54)	1.08 倍(1.15)

（2.58 倍→2.02 倍）という結果となった。特に市立稲毛の志願者減は大きなものとなった。また、40 名の定員減の影響で、検見川及び千葉西は志願者数を減らし、同じく定員減の千葉北及び幕張総合は、昨年度以上の志願者数を確保し、倍率も昨年度を上回る結果となった。昨年度志願者数前年度比 200 名減となった磯辺はやや回復したが依然低調な入試状況となった。その他では、千城台が、約 100 名の志願者増で、2.16 倍まで上昇した。千葉南、千葉商業及び若松はほぼ昨年度並みの志願状況で安定した入試の状況となっている。柏井、土気、犢橋の各高校は、緩やかな入試状況が続いている。専門学科では、市立千葉の理数は、若干倍率を下げたが、ほぼ昨年度並みであったが、市立稲毛の国際教養は、昨年度の 2.73 倍から 2.07 倍まで大幅な下降を示した。幕張総合の看護科は 1.85 倍で、例年になく低調な入試状況となった。京葉工業、千葉工業といった工業系の学科は依然苦戦の状況である。

後期選抜では、前期選抜とほぼ同じ傾向を示した。前期選抜で高かった県立千葉、千葉東、市立千葉の普通科及び検見川は高い倍率となった。また、若松、千城台、磯辺及び幕張総合が、1.6 倍台と比較的厳しい入試となった。

### 〔2 学区—船橋・市川・松戸他〕

船橋地区のトップ校県立船橋は、今年度も県内普通科 No.1 の倍率を記録した。昨年度より 40 名弱志願者を減らしたが、倍率は 3.29 倍を示した。丁寧なかつ中身の濃い進学指導を理由に、幅広い地域から志願者を集めており、激戦の状況で安定した入試が続いている。昨年度大幅な志願者減であった 2 番手の薬園台は、ややもちなおしたものの、志願倍率は 2.25 倍に留まり、このクラスでは物足りない結果となった。2 年連続の低調な入試で、今後の進学実績等に不安が持たれる。同じく昨年度大幅減の船橋東は、前期選抜の志願者数は昨年度と全く同数で、このクラスではありえない低倍率が 2 年続くことになった。進学実績等優れた面があるのも事実であるが、内申点の 2 倍評価、通学の不便さ等、その辺のマイナス要素が影響しているのか

と思われる。同レベルの八千代の普通科は、ほぼ昨年度なみの志願者を集め、2.67 倍の厳しい入試が続いている。中堅校の津田沼及び船橋芝山は、昨年度より志願者数を減らす、2.00 倍を超える入試となった。この船橋・八千代地区は、かなり高校の 2 極化現象が顕著で、八千代東、八千代西、船橋豊富及び船橋北は非常に低調な入試が今年度も続いており、特に船橋豊富は 63 名の大規模な二次募集を実施した。船橋法典は、今年度は志願者数を減らす、このクラスでは厳しい入試となっている。

表:前期選抜で志願倍率が高かった学校・学科

県立船橋	理数	4.46 倍
県立船橋	普通	3.29 倍
千葉東	普通	3.19 倍
県立千葉	普通	3.18 倍
市立松戸	普通	3.14 倍
成田国際	普通	3.03 倍
東葛飾	普通	3.00 倍
佐倉	普通	2.92 倍
小金	総合学科	2.92 倍
柏の葉	普通	2.85 倍
市立千葉	普通	2.83 倍
国分	普通	2.71 倍
鎌ヶ谷	普通	2.69 倍
県立柏	理数	2.68 倍
八千代	普通	2.67 倍

市川地区では国府台は安定した入試状況で、国分及び市川東が高い水準で人気を得ている。特に国分は、毎年志願者数を伸ばしており、今年度は 2.71 倍まで達した。市川昂は、大幅に志願者数を減らした。これは、市立松戸の通学区域変更の影響と考えられる。逆に市川南は、約 80 名の志願者増となった。松戸地区では、小金、松戸国際の人気が依然高い。特に小金は以前の生徒の自主性を重視する方針から、その伝統を継承しつつ進学指導にも力を入れてきており、進学実績等の向上も見られ、その点が評価されており、また、東葛飾の定員減（80 名）の影響も重なって志願者数を伸ばした。松戸国際は、国際教養科は志願者を減らす、普通科は、昨年度を上回る志願者数であった。以前は圧倒的に女子が多かったが、男子の志願者が増加傾向にあり、その点を考えれば進学実績も今後伸びていくと思われる。さらに、最も変動が大きかったのは、通学区域を松戸市内から「県立高校と同じ」に変更した市立松戸の普通科であった。特に前期選

抜では、定員減も重なり、3.14 倍（昨年度 2.20 倍）を記録した。松戸六実は、定員減及び市立松戸の影響で、大幅に志願者数を減らした。

後期選抜では、志願倍率の上昇が目立ったのは、国分（1.80 倍→1.92 倍）、小金（1.91 倍→2.23 倍）、市立松戸（1.20 倍→1.76 倍）であった。また、前期の結果から調整されて、薬園台や船橋東なども昨年度を上回る結果となった。逆に、八千代西（普通）、薬園台（園芸）、船橋豊富、市川工業（機械・建築）、行徳及び浦安南は、定員を満たせず二次募集を実施した。

表:後期選抜で志願倍率が高かった学校・学科

県立船橋	理数	2.63 倍
市立千葉	理数	2.60 倍
成田国際	普通	2.51 倍
佐倉	普通	2.46 倍
県立千葉	普通	2.27 倍
小金	総合	2.23 倍
県立船橋	普通	2.21 倍
八千代	普通	2.09 倍
東葛飾	普通	2.09 倍
市立千葉	普通	2.04 倍
千葉東	普通	2.03 倍
佐倉	理数	2.00 倍
市立稲毛	国際教養	2.00 倍
柏の葉	普通	1.98 倍
柏南	普通	1.95 倍

### [3 学区一柏・流山・野田・我孫子・鎌ヶ谷]

第 3 学区は、昨年度の厳しい入試を反映して、前期選抜及び後期選抜ともに緩やかな状況となった。昨年度と比較すると、前期選抜は 1.84 倍→1.73 倍、後期選抜 1.56 倍→1.32 倍で、大幅な下降を記録した。東葛飾中学校からの進学者（80 名）の為定員減となった東葛飾は、志願者数を約 150 名減らしたが、志願倍率は、ほぼ昨年度並みの 3.00 倍となった。昨年度少し回復傾向を示した県立柏の普通科は、志願者を大幅に減らし 2.00 倍を割る状況となった。このレベルの学校ではやはり物足りない数字である。鎌ヶ谷及び柏南は、ともに志願者数を減らす、依然 2.50 倍を超える厳しい入試が続いている。鎌ヶ谷、柏南ともに、進学実績が伸びてきており、入学後の学習指導や進路指導にさらなる充実ぶりが期待されている。さらに、柏の葉も東葛飾に次ぐ高倍率を示しており、前期選抜 2.85 倍、後期選抜 1.98 倍となった。柏の葉と同レベルの柏中央は、今一つ伸び悩み、前期選抜も 2.04 倍に留まった。流山おおたかの森はやや志願者数を伸ばしたが、一昨年度のレベル（2.33 倍）までは回復しなかった。地元の人気薄の我孫子は、今年度「教員基礎コース」を設置し志願者増をねらったが、

逆に志願者は減少し、前期選抜の志願者数は募集定員の320名を下回る296名という状況であった。

後期選抜でも、ほとんどの学校が昨年度を下回る志願倍率となった。その中で、柏の葉、流山おおたかの森、アクティブスクールの流山北が、若干ではあるが志願者数を伸ばした。また、下位校の状況は非常に厳しいものがあり、鎌ヶ谷西(30名)、沼南(34名)、沼南高柳(15名)、関宿(59名)及び我孫子東(47名)が大幅な二次募集を実施した。

#### **[4学区—成田・印旛・佐倉・四街道他]**

前期選抜・後期選抜ともに大きく志願倍率を上昇させた学区である。特に、成田国際の普通科の倍率上昇が顕著であった。27年度からのグローバルスクールの設置を背景に、普通科及び国際科ともに人気が高く、普通科ではこの3年間上昇傾向の志願状況が続いていたが、前期選抜では、志願者数をさらに増やし、昨年度の2.83倍から3.03倍と3倍超えを記録した。後期選抜も過去3年間で最も高い2.51倍と、昨年度の2.14倍から大幅に倍率を上昇させた。トップ校の佐倉の普通科も、前期選抜2.92倍、後期選抜2.46倍と昨年度よりさらに厳しい入試状況となった。また、同校の理数科もほぼ昨年度なみの志願状況で、理数志向の生徒をしっかりと確保した。その他でも、四街道(昨年度前期2.18倍→2.21倍)、四街道北(1.85倍→2.08倍)印旛明誠(1.79倍→2.00倍)、佐倉東の普通科(1.65倍→1.84倍)、成田北(1.57倍→1.73倍)と志願倍率を上昇させる学校が多く見られた。一方、例年人気が高い佐倉東の調理国際や服飾デザインは、志願者数を伸ばせず、昨年度を下回る結果となった。

#### **[5学区—銚子・香取・旭他]**

低調な入試が続く学区である。今年度は前期選抜1.27倍(昨年度1.29倍)と下降し、後期選抜では学区全体で定員割れの0.97倍となった。トップ校の佐原の普通科はやや持ち直し、前期選抜1.86倍(昨年度1.61倍)、後期選抜1.33倍(1.17倍)となったが、理数科は昨年度の1.43倍から下降し、1.10倍に留まった。上昇傾向にあった佐原白楊の今年度は、前期選抜では2.00倍を割り、後期でも1.21倍に下降した。小見川は、やや志願者数を伸ばし、前期・後期ともに昨年度を上回る志願状況となった。また伝統校の匝瑳高校は、今年度も志願者数が伸びず、普通科及び理数科ともに二次募集を実施した。さらに、市立銚子も、やや志願者が増えたが、後期選抜でも定員を満たせず、2年連続で二次募集を実施した。

#### **[6学区—山武・東金他]**

東金・山武地域では、全体として比較的緩やかな状況が続いていたが、今年度もほぼ昨年度なみの志願状況であった。トップ校の成東は、普通科及び理数科ともに志願者を減らした。特に理数科の志願者減が顕著であった。一方、学区2番手の東金の普通科は、前期選抜で若干志願者数を伸ばし、2倍を超え2.18倍となった。東金商業は、志願者数で約50名伸ばし、近年にない厳しい入試状況となった。普通科の他専門学科を設置する大網は、安定した状況が続いており、今年度は、普通科及び農業科の志願者数が伸びる結果となった。九十九里は、昨年度よりさらに志願者数を減らし、募集人員54名の大規模な二次募集を、2年連続で実施した。

#### **[7学区—茂原・いすみ他]**

7学区トップの長生の普通科は、40名の定員減であったが、志願者数は昨年度を上回り、前期志願倍率を2.27倍まで伸ばした。後期選抜でも1.70倍と多くの不合格者を出した。その他の普通科である茂原及び大多喜は、今年度も志願者数が伸びず、二次募集を実施した。総合学科の大原も、40名の定員減にもかかわらず、定員を満たせず、募集人員57名の大規模な二次募集を実施した。この学区は、前期選抜1.14倍、後期選抜0.98倍が示すとおり、昨年度に引き続き非常に緩やかな入試状況が続いている。

## [8学区—鴨川・館山他]

前期選抜 1.21 倍（昨年度 1.48 倍）、後期選抜 0.56 倍（0.97 倍）の超緩やかな入試となった。トップ校の安房も、今年度は志願者数が減少し、後期でも定員を満たせず二次募集を実施した。この学区の学校・学科全てで、二次募集を実施した。

## [9学区—木更津・君津・市原他]

昨年度志願者数を若干回復させた木更津の普通科は、やや志願者数を減らし、前期選抜 2.06 倍、後期 1.55 倍に留まった。逆に君津は、志願者数を伸ばし、前期選抜 2.13 倍（昨年度 1.89 倍）、後期 1.40 倍（1.25 倍）の厳しい入試となった。女子校の木更津東は、前期選抜で志願者を増やし、昨年度と同様比較的高い水準で推移している。袖ヶ浦は依然人気が高いが、袖ヶ浦を含め市原地区の学校は、軒並み昨年度を下回る入試となった。袖ヶ浦 1.99 倍（昨年度前期 2.28 倍）、京葉 1.56 倍（1.77 倍）、市原緑 1.92 倍（1.99 倍）、姉崎 1.38 倍（1.57 倍）、市原八幡 1.70 倍（2.03 倍）の結果となった。

# 入試制度の変更（2021 年度入試以降）について

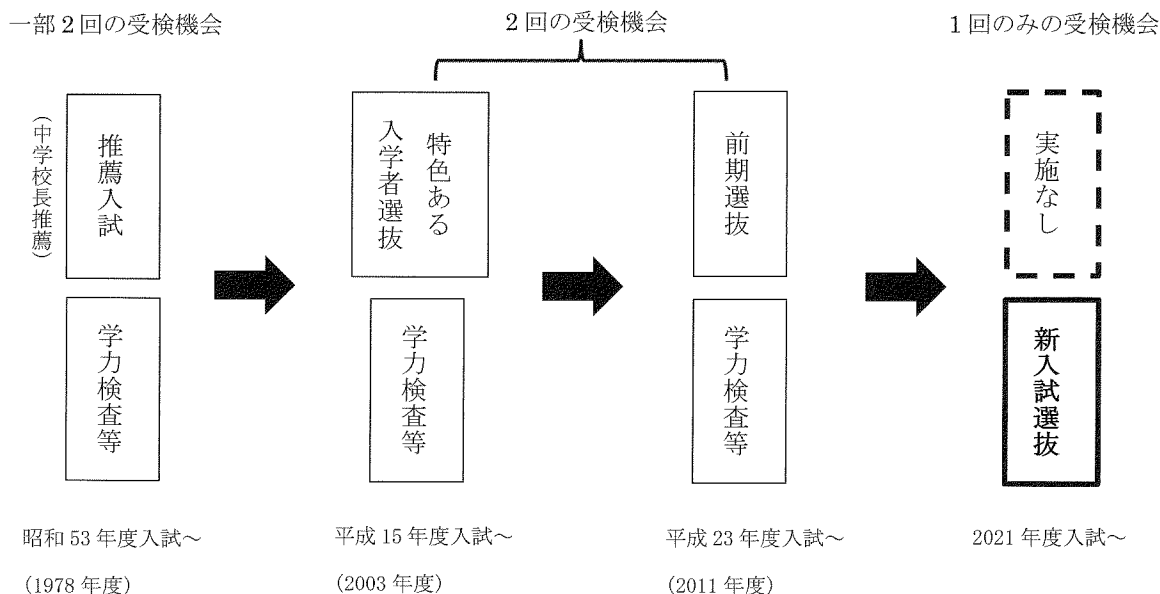
## 千葉県公立高校「受検一本化」、具体案まとまる！

千葉県教育委員会は、入試選抜の改善等について、毎年「入学者選抜方法等改善協議会」を開催してきた。今年度も昨年度と同様、計 3 回の開催で、第 1 回 7 月 6 日（金）、第 2 回 10 月 10 日（水）、第 3 回 11 月 29 日（木）に開催された。その中で立ち上げられた専門部会（主査 1 名、中学校関係者 5 名及び高校関係者 5 名の構成）により、昨年度出された試案がより具体的な試案として提出された。第 2 回では、2 日に亘る学力検査等の具体的時間割、追検査の具体的内容が試案として出され、第 3 回では選抜方法についてイメージ案が提案された。

試案は、3 月 6 日に開催された教育委員会会議において、文章表現に一部変更があったが、おおむね原案通りに決定された。次に、現段階での決定事項について述べたいと思う。

### (1) 受検機会の一本化とは。

千葉県の公立入試では、昭和 53 年度（1978 年度）入試から 2020 年度入試までの間、生徒が受検する機会は 2 回あった（推薦入試では一部の生徒のみ、「特色ある入学者選抜」からは全ての生徒）。その受検の機会が、2021 年度以降の入試では 1 回のみ受検機会となるのが「受検機会の一本化」である。



## (2) 現行の入試選抜との相違点

- ① 受検する機会が、現行の選抜においては前期選抜・後期選抜の2回あったものが、新入試選抜では1回のみとなる。
- ② 学力検査が、2日に亘って実施される。(現行の選抜では、1日に国数英理社の5教科を実施している)
- ③ 英語の学力検査の時間が60分となる。(他の4教科は50分で実施、現行は全ての教科を50分で実施している)
- ④ 調査書の評定において、算式による統一した補正は実施しない。
- ⑤ 本検査の他に、追検査が実施される。(インフルエンザ罹患等のやむを得ない理由のみ受検可能)

## (3) 本検査

### ①検査内容及び時間割

	検査の内容		時間・配点
第1日	【学力検査】国語・数学・英語	国語の問題は、放送による聞き取り検査を含む。英語の問題は、放送によるリスニングテストを含む。	国語・数学は50分 英語は60分 各教科100点
第2日	【学力検査】理科・社会		各教科50分 各教科100点
	【各高等学校が定める検査】	各高等学校において、面接、集団討論、自己表現、作文、適性検査、学校独自問題及びその他の検査のうちから一つ以上の検査を実施する。	検査の時間等については、各高等学校が定める。

	第1日		第2日	
	本検査	9:30	集合	9:30
	9:30~9:40	受付・点呼	9:30~9:40	受付・点呼
	9:40~9:55	注意事項伝達	9:40~9:55	注意事項伝達
	10:10~11:00	国語	10:10~11:00	理科
	11:20~12:10	数学	11:20~12:10	社会
	12:10~12:55	昼食・休憩	12:10~12:55	昼食・休憩
	13:05~14:05	英語	13:05~16:30	各高等学校が定める検査

### ②選抜方法等

「調査書の評定の全学年の合計値及びその他の記載事項」、「学力検査の成績」、「各高等学校において実施した検査の結果」等を資料とし、各高等学校が総合的に判定して入学者の選抜を行うものとする。また、選抜資料は原則として得点(数値)化するものとし、各高等学校は、選抜の手順、各選抜資料の配点等を定め、選抜・評価方法において公表する。

学力検査の成績	調査書の評定	調査書の加点	第2日の検査の結果	総得点	備考
〇〇〇点	◇◇◇点	△点	□点	◎◎◎点	<u>調査書の評定は、算式による統一した補正は実施しない。</u>

「学力検査の成績」、「第2日の検査の得点」、「調査書」等を全て合計した「総得点」により順位をつけ、各選抜資料の評価等について慎重に審議しながら、募集人員までを入学許可候補者として内定する。

＜総得点の満点の内訳＞

学力検査の成績	調査書の評定	調査書の加点	第2日の検査の結果	総得点
500点	135点	20点	30点	685点

ア 「学力検査の成績」、「第2日の検査の得点」、「調査書」を全て合計した表1の「総得点」により順位をつけ、各選抜資料の評価等について慎重に審議しながら、募集人員の70%以内にある者を入学許可候補者として内定する。

表1＜総得点の満点の内訳＞

学力検査の成績	調査書の評定	調査書の加点	第2日の検査の結果	総得点
500点	135点	20点	30点	685点

イ 上記アで決まらなかった者については、「学力検査の成績」、「第2日の検査の得点」、「調査書」等を全て合計した表2の「総得点」により順位をつけ、各選抜資料の評価等について慎重に審議しながら、募集人員までを入学許可候補者として内定する。

表2＜総得点の満点の内訳＞

学力検査の成績	調査書の評定	調査書の加点	第2日の検査の結果	総得点
500点	270点 (135点×2)	30点	45点	845点

\*表1に比べ、「総得点」における「学力検査の成績」の比重が低い。

#### (4) 追検査

①検査実施場所 志願した高等学校

②受検資格及び手続

- ・インフルエンザ罹患による急な発熱で別室での受検も困難である等、やむを得ない理由により本検査を全て受検できなかった者のうち、所定の手続きにより、志願する高等学校の校長に承認を受けた者。

- ・追検査を志願する者は、追検査受検願及び本検査を受検できなかった理由を証明する書類（医師の診断書等）を在籍（出身）中学校の校長を経由して志願する高等学校の校長に提出する。

③検査内容等

本検査に準じる。国語・数学・理科・社会は50分、英語のみ60分 各教科100点

「学力検査」及び「各高等学校が定める検査」（学校裁量）を1日で実施する。

④選抜結果の発表 本検査の結果と併せて同一日に発表する。

#### (5) 予想される選抜日程

現段階では、本検査－2月下旬、追検査－本検査の結果を発表するまでに実施、選抜結果の発表－3月上旬と大まかな日程が組まれているが、曜日や祝日、今までの入試日程、他県の実例等を参考に選抜日程を予想してみた。あくまでも推測であるので、注意が必要である。



2月22日	月		3月1日	月	
2月23日	火	祝日 天皇誕生日	3月2日	火	
2月24日	水	本検査(第1日)	3月3日	水	追検査
2月25日	木	本検査(第2日)	3月4日	木	
2月26日	金		3月5日	金	選抜結果の発表
2月27日	土		3月6日	土	
2月28日	日		3月7日	日	

